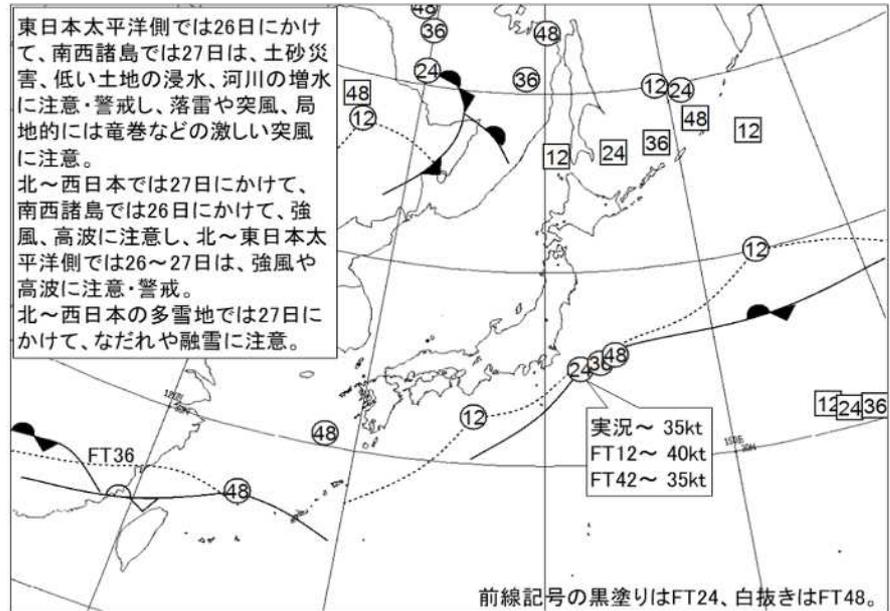


### 1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5640m付近の正渦度移流に対応して、前線が南西諸島付近～本州南岸～日本の東にのびており、前線上の日本の東と四国の南を低気圧が東進。前線に向かう下層暖湿気の影響で、東海道沖～日本の東では雷を多数検知し、激しい雨を解析。また、前線や低気圧の周辺では気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹き、波が高くなり、しけている所がある。
- ② 25日9時の高層観測では、本州付近の850hPaの気温は平年差+5℃以上となっている。



主要じょう乱解説図

### 2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の四国の南の低気圧は、25日は東海道沖に進み、26日朝には前線上の関東の東に発生する低気圧に代替わりして、前線は26日日中以降不明瞭になる。また、関東の東の低気圧は、27日にかけてほとんど停滞する。
- ② 26日は、500hPa 5760m付近の正渦度移流に対応して、朝までに華南付近で発生する前線が、夜にかけて東シナ海に進む。27日は、朝までに前線上の東シナ海で発生する低気圧が、夜にかけて南西諸島付近に進み、朝までに九州の西で発生する別の低気圧が、種子島・屋久島付近に進む。
- ③ 2項①や②の低気圧や前線に向かう下層暖湿気の影響で、東日本太平洋側では26日にかけて、南西諸島では27日は、大気の状態が不安定になり、雷を伴い激しい雨や非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ④ 2項①や②の低気圧や前線の周辺では気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹いて波が高くなりしける所がある。26～27日にかけて、関東の東海上にほとんど停滞する低気圧の周辺では、非常に強い風が吹く所がある見込み。北～西日本では27日にかけて、南西諸島では26日にかけて、強風や高波に注意し、北～東日本太平洋側では26～27日は、強風や高波に注意・警戒。
- ⑤ 2項①の低気圧や前線の影響で、北～西日本では27日にかけて、850hPaの気温が平年差+5～10℃の状態が続き、降水の影響も加わって雪解けが進む。北～西日本の多雪地では27日にかけて、なだれや融雪に注意。

### 3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

### 4. 防災関連事項【量的予報等】

- ① 雨量(18時から24時間)：伊豆諸島100mm。② 降雪量(18時から24時間)：多い所(注意報級以上)はない。③ 波浪(明日まで)：東北・関東5、伊豆諸島・九州北部4、東海・近畿・中国・四国3m。

### 5. 全般気象情報発表の有無

発表の予定はない。